

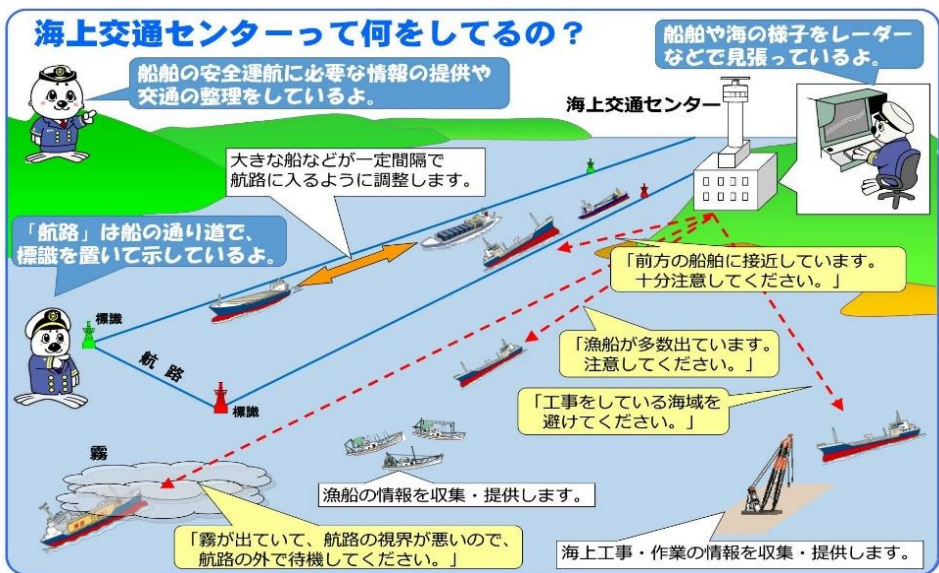
# 大阪湾海上交通センターの仕事について

大阪湾海上交通センターは、レーダーや AIS を活用して明石海峡を通る大きな船のようすを見守り、船が安全に進めるように情報を伝えたりしています。

明石海峡は 1日に大きな船が 600隻ほど通る交通量の多いところですが、船が通れる幅はせまく、潮の流れで船が押されるので、船を走らせるのがとても難しい場所なのです。

また、明石海峡の辺りでは、タコやいかなごがたくさんとれるので付近ではたくさんの漁船が漁をしています。大きな船が進むのは、さらに難しくなるのです。

そこで、明石海峡のように狭い幅を大きな船がたくさん通る場所には、航路という海の道を決めて、順番に同じ方向へ進むようにしています。船どうしが衝突しないように船はルールを守りながら航路を進みます。そして、その航路を通る船を見守り、船が進みやすいように情報を伝えるのが海上交通センターの仕事です。



例えば、船が向かう方向に漁船がいることや工事中の場所があること、前の船との間が狭くなっていて危ないことを海上交通センターから船に伝えることで、船は安心して進むことができます。船にはブレーキがないのですぐには止まらず、急に障害物を避けられないので、とても助かります。

ただ、船が通るのが難しく事故が起こりやすい場所は明石海峡航路だけではありません。すぐ東側の神戸や大阪の航路、関西国際空港の辺りもたくさんの船が行き交うので注意が必要です。そこで、海上保安庁は、大阪湾海上交通センターを、今の淡路市から神戸市のポートアイランドに引越させて、レーダーや高性能の監視カメラを追加することで、これまでのエリアを含む大阪湾北部のエリア全体を見守れるように準備をしています。

こうした海上交通センターの大切な仕事についてみなさんに知ってもらうきっかけとするために、新しく建てられた大阪湾海上交通センターの建物の呼びやすい名前をみなさんに考えていただくこととしました。神戸市ポートアイランドの端っこでたくさんの船の安全をいつでも見守っている大阪湾海上交通センターの建物にふさわしいステキな名前をつけてください。

新しい大阪湾海上交通センターの建物



神戸空港

出典：海洋状況表示システム（加工して作成）



国土地理院 (GSI)